

第2章 船橋市の文化的な特徴

1. 船橋市の文化振興のあゆみ

船橋には、3万年前の太古から人々が集い、営み、賑わってきた歴史があり、様々な文化を育んできました。

江戸と上総・東金・成田を結ぶ宿場町として栄えた江戸時代には、人々の往来が盛んになり、周辺地域から様々な文化が伝わりました。

地域の祭礼に、お囃子や神楽を取り入れるようになり、江戸から著名な俳人を呼び、近隣農村の人々が集まり句会を行うなど、宿場町だけでなく、農村部にも文化的萌芽がみられました。

また、江戸に出て、絵画などを学ぶ者も現れるなど、先進的な文化を受け入れる素地が熟成されてきました。

明治時代になると、鉄道の敷設により交通の利便性が向上し、県外からも多くの人々が訪れました。その中には文人や画家などの文化人が含まれていました。

また、大正時代から昭和初期にかけて、商業の中心地・本町通り周辺には、寄席やダンスホールができ、多くの人々が文化に触れる機会が増えていきました。

終戦直後、闇市が立ち人々が殺到するなど世の中が荒廃し食べることが精一杯で、暮らしがまだまだ貧しい中、図書館や公民館を開設しました。その後、昭和22（1947）年に男声合唱団、昭和30（1955）年には、ボーイスカウトの音楽隊から発展した県内初の市民吹奏楽団が結成されるなど、市民主体の文化活動が生活の一部として動き始めました。

昭和30年代以降、大型レジャー施設が開業し多くの人々で賑わうとともに、交通網の発展及び住宅団地の造成があいまって、人口が飛躍的に増加しました。まちの発展、人々の生活の多様化とともに、様々な分野の団体が設立されるなど市民の文化活動が活発に展開されていきます。

また、子供たちの文化活動として、教育委員会により楽器を小中学校に貸与する事業を実施するなどの取組が行われ、多くの小中学校の器楽部や合唱部が全国的なコンクールなどで結果を残し始めます。これらの市民主体の文化活動や学校における音楽活動は本市の芸術文化における大きな特徴となっています。

なかでも平成6（1994）年に開始した「音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭」は、音楽団体や小中学校などが参加し活動の成果を市民に披露しており、今では出演者、来場者を合わせて4,000人を超えるイベントとして多くの人々に親しまれています。

歴史や風土、船橋に関わる多くの人々の思いや活動により船橋の文化は脈々と育まれ、今も私たちの身近なところで芽吹き、息づいています。

2. 文化振興の拠点と各地域に息づく多様な文化

(1) 文化振興の拠点

市民が文化への関心を高め親しむためには、文化に触れる場の整備が重要です。

船橋市では、市民の文化活動を支える拠点として市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール）、市民ギャラリー、茶華道センター、郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館といった文化施設を整備しています。

また、公民館や図書館などの社会教育施設、ふなばしアンデルセン公園、新たに開館するふなばし三番瀬環境学習館なども市民が継続して文化活動に親しむために重要な役割を担っていく場とし、これらを総じて文化振興の拠点と捉えます。

文化芸術ホール（市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール））

市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール）は、市民が優れた文化芸術を享受する機会や自ら文化芸術活動を実践する場を提供し、併せて文化芸術の振興に資する事業を行うとともに、独創性のある新たな文化芸術創造活動への支援等を通して市民文化の発展に寄与することをめざしています。

また、事業の運営や企画に関する専門的な助言等を得るため船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザー^②を迎え、それぞれの施設の空間にあった特色ある事業運営を図ります。

市民ギャラリー、茶華道センター

市民ギャラリー、茶華道センターは、文化芸術活動を行う人の自主性を尊重し、文化芸術をより身近なものとして親しめるよう各種事業を行っています。

博物館（郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館）

郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館は、「ふるさと船橋」への思いを育む施設として、船橋市に関連する考古・歴史・民俗等の資料の収集・調査・保存・研究・活用を図り、その内容を明らかにするとともに、市民の学習・文化活動の推進及び支援を行います。

^② 船橋市文化芸術ホール芸術アドバイザー：文化芸術ホールの運営に関して多様な文化芸術分野から専門的な助言を行い、市民が優れた文化芸術を享受する機会及び独創性ある新たな文化芸術の創造を支援する。

市民文化ホール

品格ある文化都市を目指すため、市民の芸術文化活動の拠点として開館以来、市民の活動発表の場など様々な形で利用されており、他市の類似施設と比べ高い利用率となっています。

また、多くの市民に音楽、演劇、古典芸能等、優れた芸術文化を提供するとともに、市民参加型の事業にも力を入れています。

【所在地：本町 2-2-5】

〔最大定員 1,000 名、舞台面積 356 ㎡、楽屋、リハーサル室〕

開館：昭和 53（1978）年 7 月



市民文化創造館（きららホール）

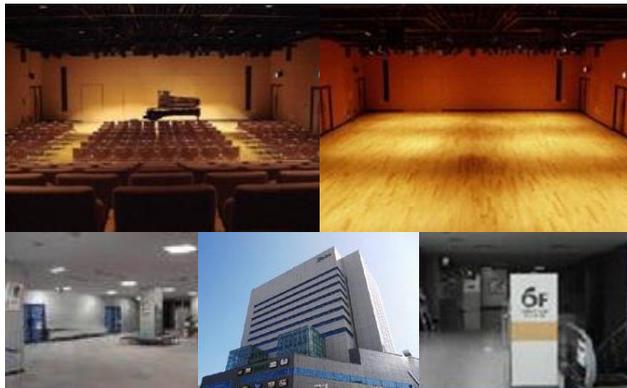
船橋フェイスビルの 6 階に船橋の新しい文化発信基地として開館しました。出演者と観客との距離が近いライブ空間で、ジャンルにとらわれない創造性の高い事業や青少年を対象としたワークショップ、更に若い才能の発掘や支援など、文字どおり市民の文化を創造しながら船橋市の芸術文化を育てていくことを目指しています。

市民文化創造館（きららホール）の代名詞ともいべき、よりみちライブは、ジャンルにとらわれない音楽などを市内外に発信しています。

【所在地：本町 1-3-1 フェイスビル 6 階】

〔最大定員 264 名、ホール面積 285 ㎡、控室〕

開館：平成 15（2003）年 4 月



市民ギャラリー

市民の文化活動の成果を自由に発表できるとともに、サロンの雰囲気のもとに市民がより身近に芸術作品に親しめる場を提供しています。

【所在地：本町 2-1-1 船橋スクエア 21 ビル 3 階】

〔展示室 4 室、ホール 2 室〕

開館：平成 5（1993）年 4 月



茶華道センター

日本古来の伝統文化である茶華道の専門施設として、茶道・華道の本格的活動の場を提供しています。

【所在地：本町 2-1-1 船橋スクエア 21 ビル 5 階】

〔茶室 3 室、和室 3 室（舞台付 1 室）〕

開館：平成 5（1993）年 4 月



郷土資料館

船橋市を中心とした地域の歴史や文化について、資料の収集・調査・保存・研究・活用を行い、常設展や企画展を通じて市民に公開しています。

収蔵資料は、考古・歴史・民俗資料を中心に構成しています。

【所在地：薬円台4-25-19】

〔第1・第2展示室、特別展示室、第1・第2・第3・第4収蔵庫、資料室兼研究室〕

開館：昭和47（1972）年6月10日

※平成30（2018）年1月にリニューアルオープン予定



飛ノ台史跡公園博物館

約7,000年前の縄文時代早期の遺跡として古くから知られる飛ノ台貝塚の貴重な遺構等を平成9（1997）年に市史跡に指定し、「史跡公園」として保存するとともに、飛ノ台貝塚や市内の縄文遺跡から出土した遺物等の展示をする「展示施設」からなる縄文専門博物館としてオープンしました。

また、博物館開設にあたり、出土品や遺構を広く市民に展示公開することにより、縄文時代を知り、ふるさとの歴史や文化に対する興味や関心を高めることを理念としています。

【所在地：海神4-27-2】

〔ギャラリーコーナー、常設展示室、ワークショップ室、研究資料室〕

開館：平成12（2000）年11月

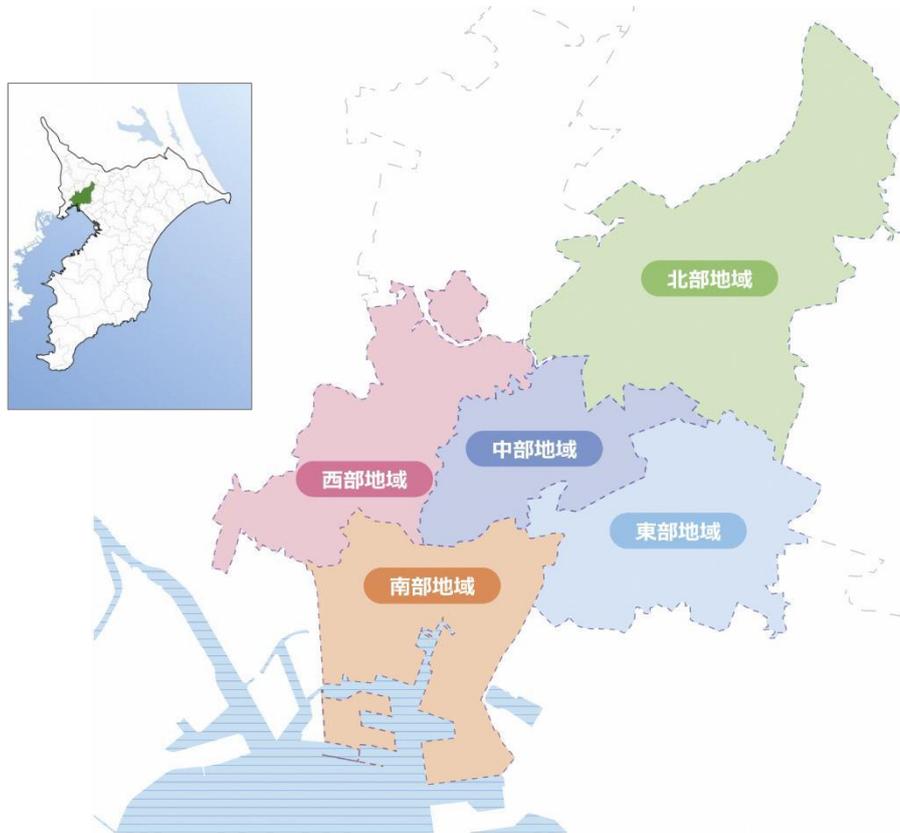


その他の文化振興の拠点

公民館 (26館)	中央公民館、海神公民館、浜町公民館、宮本公民館、葛飾公民館、西部公民館、塚田公民館、法典公民館、丸山公民館、新高根公民館、高根公民館、高根台公民館、夏見公民館、東部公民館、習志野台公民館、飯山満公民館、三田公民館、薬円台公民館、海老が作公民館、小室公民館、坪井公民館、二和公民館、北部公民館、松が丘公民館、三咲公民館、八木が谷公民館
図書館 (4館)	西図書館、中央図書館、東図書館、北図書館
その他	ふなばしアンデルセン公園・子ども美術館、ふなばし三番瀬環境学習館、勤労市民センター等

(2) 船橋市の各地域の特徴

船橋市の特徴を知ることができるよう船橋市を5つの地域に分け、概要や文化資源を整理しました。



南部地域

高い利便性により人と文化の交流拠点となる地域

まちの中央を流れる海老川、三番瀬、船橋大神宮など自然や歴史等を背景として、現在も賑わいと活気にあふれた船橋市の玄関口であるとともに、海と港に親しむことのできる地域です。

【文化振興の拠点】

市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール）、市民ギャラリー、茶華道センター、中央公民館、海神公民館、浜町公民館、宮本公民館、中央図書館、ふなばし三番瀬環境学習館、勤労市民センター

【文化資源の一例】

宮本台遺跡群、船橋大神宮の神楽・灯明台、玉川旅館、ばか面おどり、八劔神社祭礼など

資料編-5 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。

凡 例	
	ホール・郷土資料館等
	公民館
	図書館



西部地域

自然・歴史・都市景観が共生する地域

中世の日蓮宗大名刹・中山法華経寺（市川市）の隣接地域であり、内陸の木下街道周辺には多様な歴史的特性があります。

現在も、交通の便がよく都心に最も近い地域でありながら湧水や社寺林などの自然も多い地域です。

【文化振興の拠点】

飛ノ台史跡公園博物館、葛飾公民館、西部公民館、塚田公民館、法典公民館、丸山公民館、西図書館

【文化資源の一例】

飛ノ台貝塚、印内台遺跡群、印内八坂神社祭礼、船橋海軍無線電信所跡など



資料編-6 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。

中部地域

かつての伊勢神宮領の御厨（みくりや）が含まれる地域

夏見の台地上には縄文・弥生・古墳・古代・中世の複合的な遺跡があります。

また、かつては伊勢神宮領の夏見（船橋）御厨といわれた地域が含まれています。

金杉・高根には今も歴史を感じさせる景観が残ります。

【文化振興の拠点】

新高根公民館、高根公民館、高根台公民館、夏見公民館

【文化資源の一例】

夏見台遺跡、高根町神明社の神楽、節分祭（日枝神社）など



資料編-7 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。

東部地域

周辺に大学があり学生が多く集まる地域

国登録文化財の東葉高等学校正門（旧近藤家住宅長屋門）など数多くの文化財があり、郷土資料館を中心として船橋市の歴史を多く感じることができます。

また、総武本線の津田沼駅は交通の利便性がよく、周辺には複数の大学があり、多くの学生が行き交う地域となっています。

【文化振興の拠点】

郷土資料館、東部公民館、習志野台公民館・東図書館、飯山満公民館、三田公民館、薬円台公民館

【文化資源の一例】

取掛西貝塚、下総三山の七年祭り、二宮神社社殿・神楽・イチョウ、東葉高等学校正門（旧近藤家住宅長屋門）など

資料編-8 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。



北部地域

自然豊かな景観により船橋市の原風景がある地域

緑豊かな環境に恵まれており、畑作を中心に農業が営まれ、果樹園が点在し、古くからの民俗行事も残る地域です。

また、子ども美術館のあるふなばしアンデルセン公園は人気が高く全国的にも有名です。

【文化振興の拠点】

海老が作公民館、小室公民館、坪井公民館、二和公民館・北図書館、北部公民館、松が丘公民館、三咲公民館、八木が谷公民館、ふなばしアンデルセン公園・子ども美術館

【文化資源の一例】

小室台遺跡、小室の獅子舞、神保ばやし、楠が山の辻切りなど

資料編-9 ページに詳細な地域の特徴を掲載しています。



3. 船橋市の文化振興の現状・強み・課題

社会的な動きや地域の特徴、文化資源について把握するとともに、アンケート調査や文化団体との意見交換会の結果を踏まえて、現状・強み・課題を整理しました。

(1) 現状・強み

現 状
<p>① 船橋駅は利便性が高く、都心ともアクセスが良好で、駅周辺には市民文化ホールや市民文化創造館（きららホール）、市民ギャラリー、茶華道センター等の文化施設があり、様々な文化事業を実施しています。</p> <p>② 市内では市民主体の多様な文化活動が行われており、自己表現力や感性などを向上させる場となっています。</p> <p>③ 市内には、地域に残る伝統行事が数多くあり、地域活動や学校教育などを通して大切に伝えられています。</p> <p>④ 市内には、地域独自の文化資源や、まだ文化として認識されておらず、本来の魅力を発信できていない文化資源があり、今後、船橋市の新たな魅力となる可能性があります。</p>

強 み
<p>① 市内には人が集まる場所が数多くあり文化発信・交流の拠点となる可能性を持っています。</p> <p>② 各地域には地域の伝統文化や祭事が、地域の人々によって大切に受け継がれています。</p> <p>③ 船橋市には歴史ある市民音楽団体が数多くあり、現在も「音楽のまち・ふなばし」を掲げる船橋市の音楽文化を支える活動を行っています。</p> <p>④ 市内の小中学校の器楽部や合唱部の音楽活動は全国的なコンクールなどでめざましい活躍をしており、学校での音楽活動が盛んです。</p> <p>⑤ 人々の暮らしの中で生まれ、育まれてきた文化は、地域ごとの特徴をもち、船橋市全体が生き生きと活動していくための基盤となっています。</p>

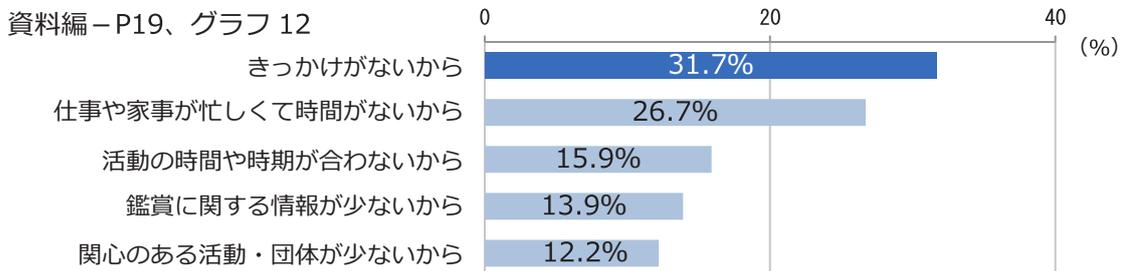
(2) 課題

資料編-11～34 ページに詳細な課題分析の内容を掲載しています。

1 市民が文化に触れるきっかけづくりが求められています

- 市内の鑑賞のしやすさの満足度は低く、活動のしやすさの満足度も約半数となっています。
- 鑑賞や活動の場所として、文化施設の整備だけではない環境整備が求められています。
- 活動をしなかった、あるいは思うようにできなかった理由として、「きっかけがないから」が最も多く、活動の環境を整備・充実させ、文化に触れるきっかけをつくること課題といえます。

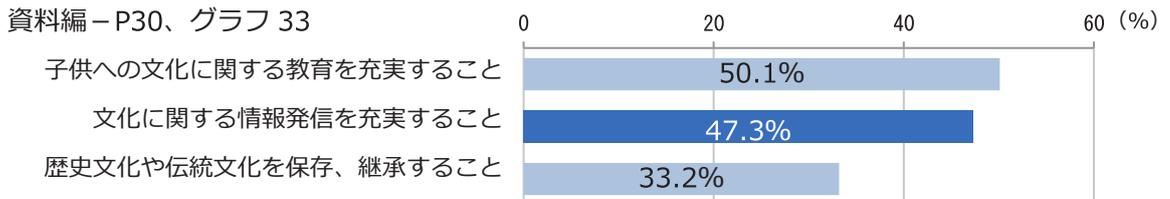
活動をしなかった、あるいは思うようにできなかった理由（上位5位）【市民アンケート調査（複数回答）】



2 市民の鑑賞・活動につなげる情報発信が求められています

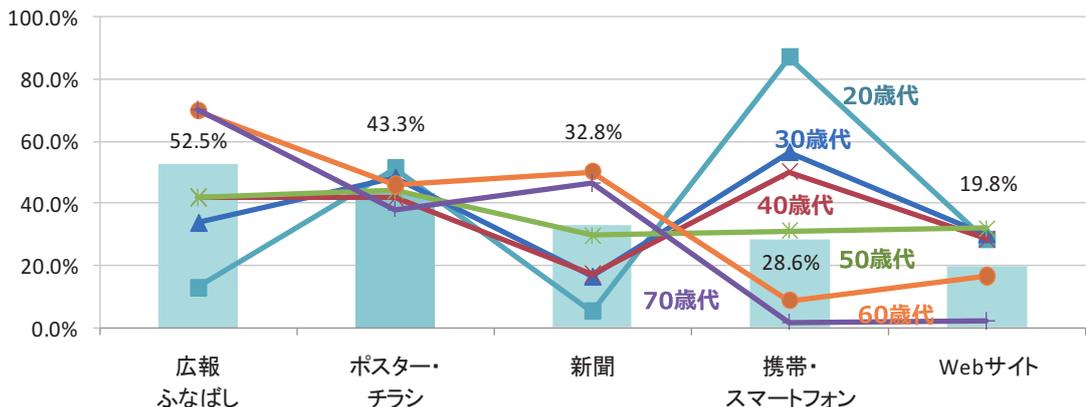
- 鑑賞・活動をしなかった、あるいは思うようにできなかった理由として情報が少ないことが上位になっています。
- 今後力を入れていくべき取組として情報発信を充実することが上位となっており、鑑賞や活動につなげるための情報の整理・発信が課題といえます。

今後力を入れていくべき取組（上位3位）【市民アンケート調査（複数回答）】



鑑賞する際に情報を入手する媒体（年代別）（上位5位）【市民アンケート調査（複数回答）】

資料編-P30、グラフ 34

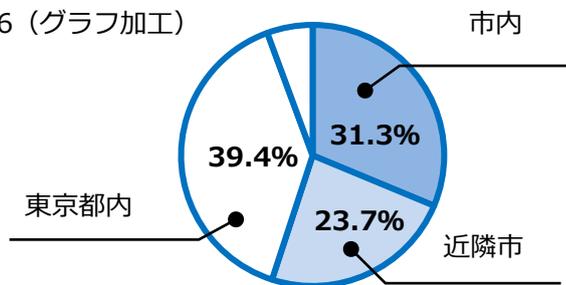


3 公共交通網が発達し、利便性が高い地域であることを踏まえた施策が求められています

- 文化施設は南部地域に多く、船橋駅周辺にあることから文化施策を展開する上で発信力・求心力が高いといえます。
- 船橋市は交通の利便性が高いことから、市民の鑑賞場所は市内だけでなく、東京都内、近隣市と分散しています。
- 今後、市内で鑑賞したいものとして「高価でも著名なアーティストによる展覧会やコンサートなど」「街中で仕事帰りなど気軽に立ち寄ることができるもの」が挙げられています。公共交通網が発達し利便性が高いことを活かし、日常生活の中で気軽に楽しめる事業とともに、市外からも足を運んでもらえるような施策の展開が求められます。

1年以内に鑑賞した場所【市民アンケート調査】

資料編-P16、グラフ6 (グラフ加工)

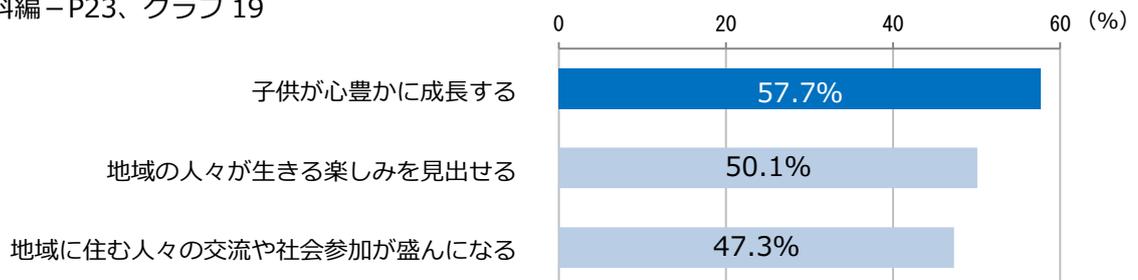


4 教育やまちづくりなど、他の取組と連携しながら、文化施策を推進する基盤づくりが求められています

- 文化団体との意見交換会では学校教育や船橋市の各地域での取組と連携していくことで、より地域に根差した活動として活性化させたいという意見がありました。
- 文化の振興に期待する効果として、子供の成長に次いで、地域の人々の生きがいづくりや地域の交流が盛んになることへの期待が高くなっています。
- 文化芸術ホールの利用率は非常に高い一方、活動をしている割合は少ないことから、文化活動を新たに始め、楽しめるよう施策を推進していく必要があります。

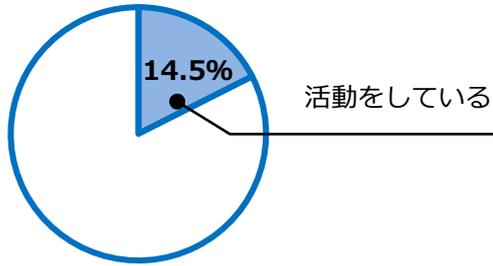
文化の振興に期待する効果（上位3位）【市政モニターアンケート調査（複数回答）】

資料編-P23、グラフ19



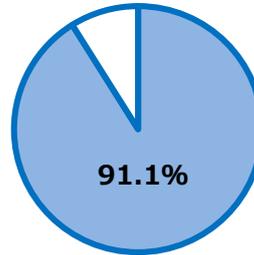
活動をしている割合【市民アンケート調査】

資料編-P19、グラフ10（グラフ加工）

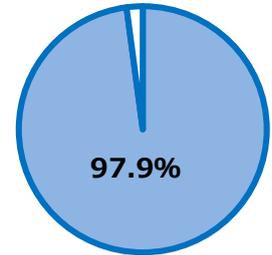


文化芸術ホールの利用率（平成27（2015）年度実績）

市民文化ホール



市民文化創造館
（きららホール）

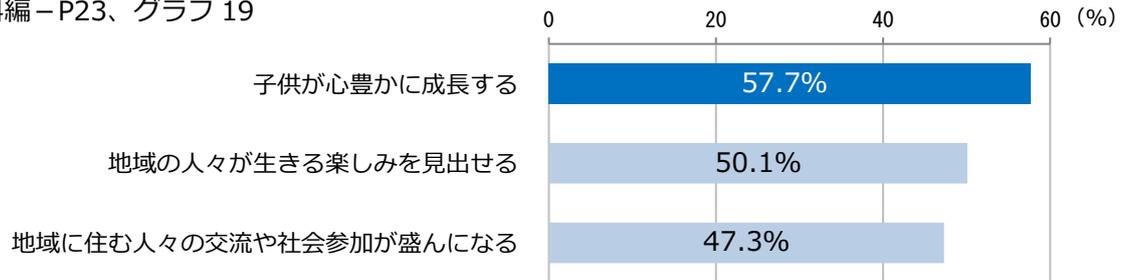


5 将来を担う子供たちが心豊かに成長するための取組が求められています

- 文化振興において子供たちに対する取組の重要性やニーズに関する意見が多く、子供の成長や教育に対する効果が最も期待されていることから、特に子供たちが文化に親しむ機会を充実させる取組を重要視する必要があります。

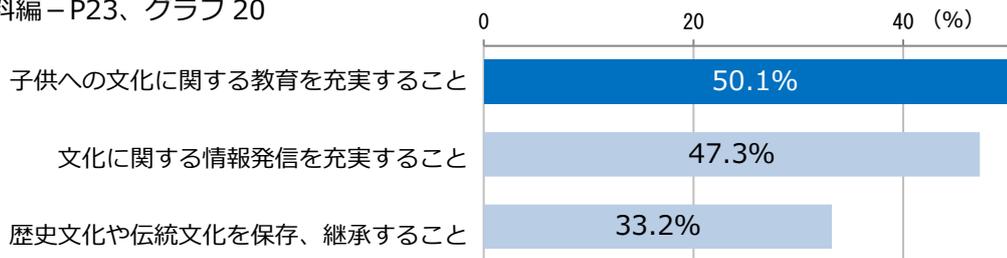
文化の振興に期待する効果（上位3位）【市政モニターアンケート調査（複数回答）】

資料編-P23、グラフ19



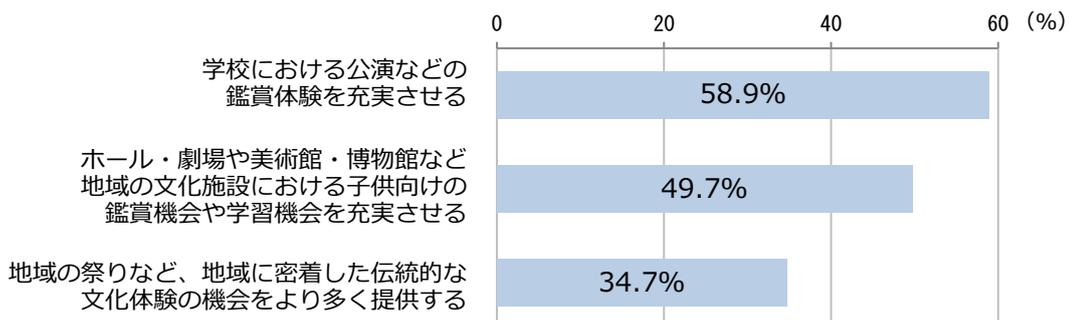
今後力を入れていくべき取組（上位3位）【市民アンケート調査（複数回答）】

資料編-P23、グラフ20



子供たちが文化に親しむ機会として重要な事項（上位3位）【市民アンケート調査（複数回答）】

資料編-P23、グラフ21

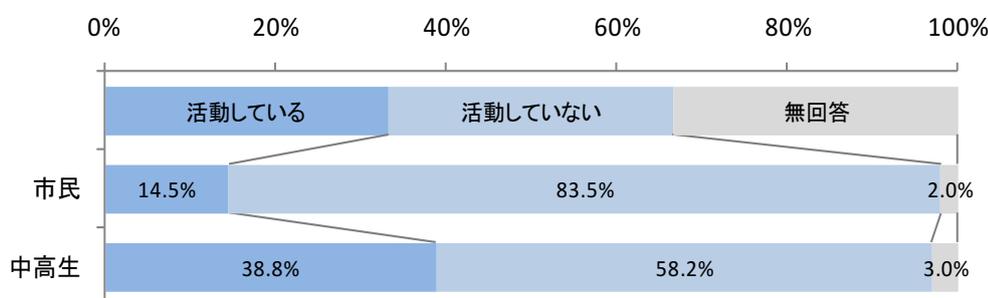


6 子供から大人まで生涯にわたって地域で学ぶための取組が求められています

- 市民アンケート調査では、市民の活動している割合は、中高生アンケート調査と比較して約3分の1の割合になっており、活動を行う環境の変化により割合が減少していることが伺えます。
- 文化団体アンケート調査では、「同じ趣味・活動を行う人の交流の場を確保することができた」などの成果がある一方で、高齢化が課題となっています。
- 文化団体との意見交換会では、学校教育との連携により、生涯にわたって切れ目のない文化振興に努めるとの意見もあり、地域で学び続けることができる環境が求められています。

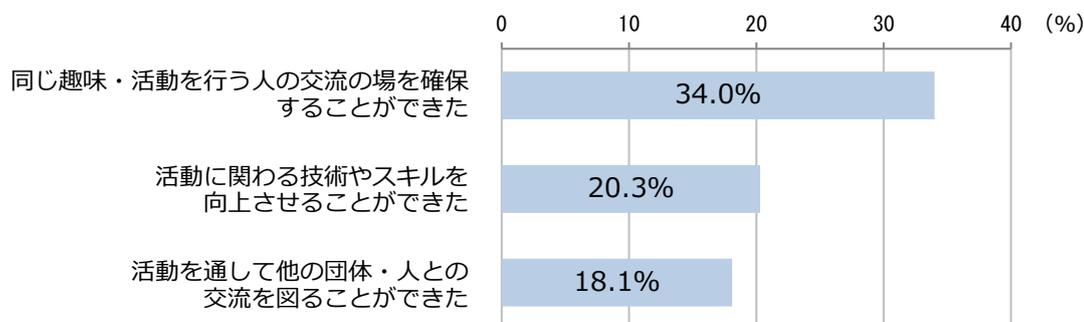
活動状況【市民アンケート調査・中高生アンケート調査】

資料編-P19、グラフ10



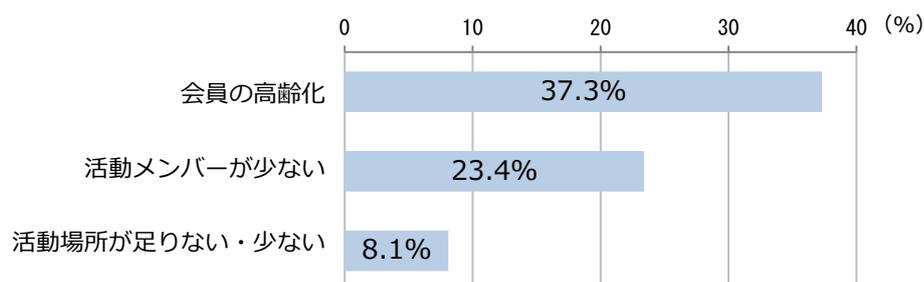
活動の成果（上位3位）【文化団体アンケート調査（複数回答）】

資料編-P21、グラフ17より上位3位抜粋



活動の問題点や課題（上位3位）【文化団体アンケート調査（複数回答）】

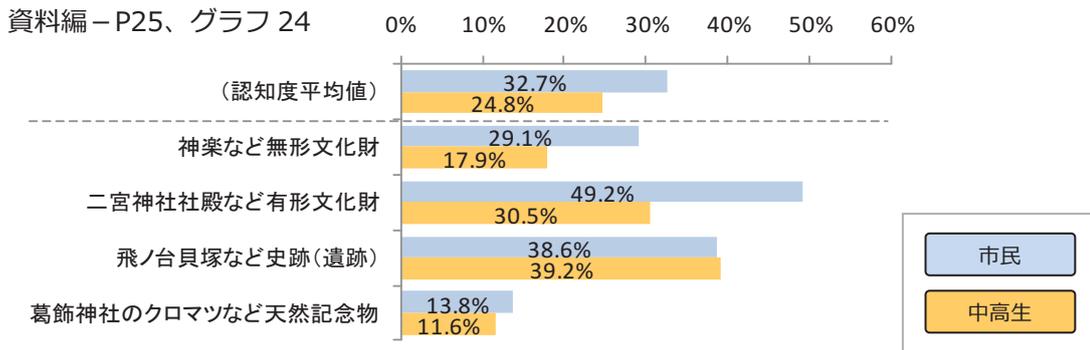
資料編-P21、グラフ18より上位3位抜粋



7 各地域への愛着・親しみをもてる取組が求められています

- 市内の身近な文化資源などを問う市民アンケート調査（自由意見）では、「船橋市の文化についてよく知らない」という意見が多く、船橋市の指定・登録文化財の認知度は平均して約3割と決して高くないことから、市民が船橋市の地域の文化をより身近に感じ、地域への愛着や親しみにつなげる取組が求められています。
- 船橋駅周辺にある市民文化ホール、市民文化創造館（きららホール）などでの魅力ある事業やふなばしアンデルセン公園などの特徴的な資源を活用し、各地域の魅力を効果的に展開していくことが必要です。

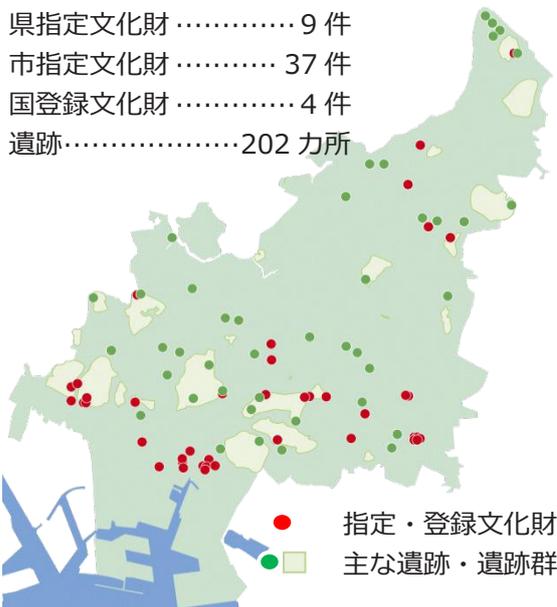
船橋市の指定・登録文化財の認知度【市民アンケート調査・中高生アンケート調査】



8 各地域の特徴を踏まえた文化資源の活用と人と文化資源をつなぐ取組が求められています

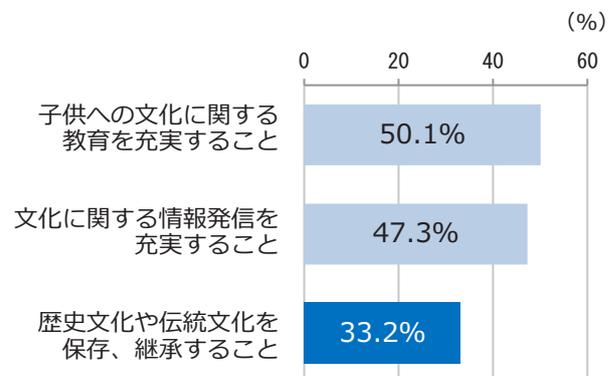
- 船橋市の各地域には、自然や歴史等を反映した文化が多く残されており、今後力を入れていくべき取組や子供たちに対する取組としても、歴史、伝統文化の保存や継承は重視されています。
- 文化資源は守り伝えられてきた地域によって特徴が異なっており、地域によって市民の意識も多様となっています。
- 地域の文化資源の更なる周知・共有により、人と人、人と文化資源をつなぎ相互理解を深める取組が必要です。

船橋市の指定・登録文化財の位置図



今後力を入れていくべき取組（上位3位）
【市民アンケート調査（複数回答）】

資料編－P27、グラフ 29



4. 基本的な考え方

船橋市の文化的な特徴を踏まえた施策を展開するために、文化振興に必要な基本的な考え方を6つに整理しました。

これをもとに基本方針を掲げます。

基本的な考え方	概要
1. 文化活動を行うための 機会の充実	各地域で気軽に文化に出会うことができるきっかけづくりを推進し、様々な場で文化に触れたり、地域で行われる文化活動に参加するなど、文化を体感し楽しむ機会を増やします。
2. 効果的な情報の発信	文化に関する行事やイベント、講座、施設、人材などの様々な情報を収集するとともに、インターネットや広報紙等の媒体を活用し、市民に発信します。
3. 船橋市における文化 鑑賞・創作活動の推進	市民を鑑賞や創作活動につなげるために、各団体や文化施設などとの連携を図りながら文化に関わる活動環境を整備します。
4. 将来を担う子供たち への取組の充実	文化に触れる機会を充実させることで、将来を担う子供たちが地域への愛着を抱くとともに「創造力」と「想像力」を育み、心豊かに成長するよう取り組みます。
5. 地域の文化資源の活用	海や森などの豊かな自然環境をはじめ、生活文化や伝統文化、芸術文化など多くの文化資源を保存・活用し、未来につなげます。
6. 効果的な文化振興	市民が「ふるさと船橋」へ愛着を抱けるよう船橋市の文化振興を効果的に図るために、文化に対する市民の意向などを把握する調査を基に施策の評価を行います。